

諮 問	今回の答申（案）
条例の運用に関すること	
<p>条例の運用に関して、まちづくりの担い手が増えていき、つながっていく仕組みや、市民のまちづくり活動への参加促進など、自治基本条例を活用したまちづくりを広げていくための取組について検討してください。</p>	<p>戸田市第5次総合振興計画協働会議をはじめ、市民、議会、行政が参加する会議・委員会が開催され、条例の運用は少しずつではありますが、着実に実行されていると思います。標記協働会議には、自治基本条例推進委員会委員も5名参加しており、会議の中で条例の説明をする機会を得るとともに、条例制定後に初めて開催される協働会議の意義について意見を述べ、会議参加者からは一定の理解を得ることができました。</p> <p>また、条例の運用に関する調査の一環として「自治基本条例フォーラム」を開催しましたが、開催する中で、その準備の段階から委員を中心とした、市民、議会、行政が協働して、企画や当日の運営等を行うことができました。</p> <p>平成30年度のフォーラム開催に当たっては、新たに無作為抽出による参加者募集を実施し、これまで市政に関わる機会が少なかった市民に対しても新たなきっかけを提供することができましたもできております。</p> <p>一方、フォーラムについては、参加者数が減少していることなどから、その実施手法や実施主体などについても改善の余地があることも現状の課題として挙げられます。フォーラムの実施手法については、推進委員会の在り方とともに今後検討する必要があると思われま</p>
条例の普及及び啓発に関すること	
<p>条例の普及及び啓発に関して、条例の名称や内容に慣れ親しむための広報活動や、市民や市民活動団体等が「自治基本条例は自分たちの地域を自分達でより良くしていくためにある」という理解を深めていけるような、周知・啓発活動などの取組について検討してください。</p>	<p>条例の普及及び啓発を進めるためには、多くの市民に条例を知ってもらい、その趣旨を理解してもらうことが大切ですが条例の趣旨を市民に理解してもらうためには、まず周知が必要ですが、市民への周知はまだ十分とは言えないのが現状です。条例が制定されたことを市民が実感できる場面が少ないことが原因と思われま</p> <p>平成30年度に自治基本条例推進委員会で静岡県焼津市の「まちづくり市民集会大ワールドカフェ」を視察に参加しましたが、戸田市においても、このような多種多様な市民が意見を交換し、条例を啓発する機会が必要ではないかと思われま</p> <p>令和元年度には、条例のイラストを活用プリントした啓発品を作成しました。イラストの作成に当たっては、委員自らが意見を出し合い、条例に込められた想いなどを反映させました。市内で行われるイベントにおいて、啓発品を自治基本条例マンガパンフレットとともに配布することで、市内の多種多様な市民に条例の周知をすることができました。今後は、イラストを活用した活動委員会の取組に関する展示を実施するなど、様々な手法でのさらなる周知・啓発が必要であると思われま</p> <p>市民自らがまちづくりに関心をもつこと、市民自らが市政に主体的かつ積極的に参加すること、といった条例の基本理念を市民にいかに浸透させるか、市も引き続き積極的に取り組むべき課題であると思われま</p>
条例の見直しに関すること	
<p>条例の見直しに関して、戸田市自治基本条例第21条に基づき、条例全体を改めて精査することで、各条項を理解し、見直しについて検討してください。</p>	<p>推進委員会における審議の結果、「条例の見直しは必要ない」という結論に至りました。</p> <p>条例の見直しについて、「市民」の定義について議論を重ねましたが、戸田市内に住所を有する「住民」だけではなく、通勤、通学、事業所（法人）など、「市民」を広く定義することで、災害時だけではなく、通常時から様々な人が戸田市をより良くするために活動する必要があるということで、「市民」の定義は現行通りで良いと結論付けられました。</p> <p>その中でも、少数意見ですが、「市民」を広く定義した場合、一部の特殊イデオロギーの集団が市政に介入し、悪影響を与える危険性があるとの意見もありましたが、その危険性は他の法律等で予防出来るという意見がもあり、今回の答申では改正の必要がないという結論に至りました。</p> <p>条例の体系のあり方、自治基本条例推進委員会のあり方については委員会の中でも様々な意見が出ていることから、今後議論すべき時期に来ており、引き続き検討が必要と思われま</p>